

安倍政権とメディア—私の決意

表題は「憲法公布 70 周年 憲法 9 条を守ろう 2016 愛知県民のつどい」の岸井成格・毎日新聞特別編集委員の講演テーマである。「私の決意」という副題のように、岸井さんの生々しい最近の体験を踏まえ、危機感を感じさせる迫力ある講演だった。100 分間にわたり集中して、耳を傾けメモをとった。



まずは「格言」めいたことから。絶対的権力は必ず腐敗し暴走する。メディアが権力をチェックし、ブレーキをかけなくてはならない。これこそジャーナリズムの一番の、最後の使命だ。だが日本の現実には、メディアが分断され、その使命を果たせていない。安倍政権の主な動きを列挙する。特定秘密保護法制定、武器輸出解禁、日米ガイドライン改定、安保法制と矢継ぎ早だ。衆参両院で3分の2を初めて手にして、憲法改正へと突き進む。緊急事態や共謀罪あたりからか。

メディアにも攻撃が。総務大臣の「電波停止発言」は憲法違反、放送法違反。外国人記者から言わせると、考えられない発言だ。彼らが驚くのが、日本のメディアがそれに一緒になって抗議しないこと。世界のなかで、日本のメディアの評価はがた落ち。安倍政権のメディア対策は、じつに巧妙かつ狡猾。エビデンス、証拠を残さず、メディアを内からコントロールする。2001年の「NHK番組改編事件」などから、安倍さんはテクニックを学んだようだ。

日米安保のドンと言われる、元米国務副長官・アーミテージは、憲法9条がバリエードになって、自衛隊をアメリカのために使えないと。湾岸戦争のときだ。安保法制により、バリエードは取り払われ、自衛隊はアメリカのために世界のどこにも出ていくことになった。アーミテージは大喜びだ。アメリカが手を引く、危険な南スーダンなどに、自衛隊はアメリカの肩代わりで派遣される。日本のためではない。アメリカのためだ。

なんと言っても、安倍さんは「戦後レジーム」の打破を目指す。これからが本番だ。憲法・教育・メディアの3本柱。そのために3期9年、2021年9月まで任期延長が可能に。そうすると、桂太郎・伊藤博文に並ぶ。いずれも長州、山口県出身だ。安倍一強で国会は頼りにできない。メディアも分断され動きがとりにくい。国民の力が必要だ。政治的理由で公共施設を利用できないといった、これまでの常識が通じなくなっている。

いまこそ、声を上げ続けなくてはならない。

(2016年11月5日)